

議案第1号

令和5年度県立高等学校の学級減について

令和5年度県立高等学校の学級減について、別紙のとおり議決を求めます。

令和3年12月20日

鳥取県教育委員会教育長 足羽英樹



令和5年度県立高等学校の学級減について

令和3年12月20日  
高等学校課

学校名	令和4年度			令和5年度			理由			
	大学科	小学科		大学科	小学科					
青谷	総合③			総合②			入学者数が2年連続して募集定員の3分の2に満たなかったことから「今後の県立高等学校のあり方に関する基本方針」に基づき1学級の減とする。			
	<入学者数の状況>									
	平成31年度入試			令和2年度入試				令和3年度入試		
	募集定員	入学者数	充足率	募集定員	入学者数	充足率		募集定員	入学者数	充足率
114名	91名	79.8%	114名	57名	50.0%	114名	58名	50.9%		
岩美	普通③	普通③		普通②	普通②		入学者数が2年連続して募集定員の3分の2に満たなかったことから「今後の県立高等学校のあり方に関する基本方針」に基づき1学級の減とする。			
	<入学者数の状況>									
	平成31年度入試			令和2年度入試				令和3年度入試		
	募集定員	入学者数	充足率	募集定員	入学者数	充足率		募集定員	入学者数	充足率
114名	84名	73.7%	114名	58名	50.9%	114名	39名	34.2%		
鳥取中央育英	普通④	普通コース③ 体育コース①		普通③	普通③		近年の入学者数の定員割れの状況、東部・西部地区での学級減等の状況、中部地区での生徒数の減少を踏まえ、1学級の減とする。			
	<入学者数の状況>									
	募集定員	H30		H31		R2		R3		
	普通コース (定員120名)	123名 (+3名)		111名 (▲9名)		106名 (▲14名)		60名 (▲60名)		
体育コース (定員40名)	37名 (▲3名)		40名 (-)		20名 (▲20名)	23名 (▲17名)				
<近年の学級減の状況>										
年度	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4			
東部	鳥西▲1		鳥工▲1		八頭▲1	鳥商▲1				
中部	倉総▲1									
西部				米西▲1		米東▲1				

令和5年度の県立高等学校の学級減について

令和3年12月20日  
高等学校課

今後も続く中学校卒業生の減少に対応するため、次のとおり令和5年度に学級減を実施します。

- (1) 青谷高校における1学級減(3→2学級)
- (2) 岩美高校における1学級減(3→2学級)
- (3) 鳥取中央育英高校における1学級減(4→3学級)

1 現状

県内中学校卒業生数は、平成31年度(令和元年度)から令和7年度までの期間に381名減少する。現行の基本方針では生徒数の減少には原則、学級減で対応することとしている。

近年の学級減の状況は、東部地区では、令和2年度に八頭高校、令和3年度に鳥取商業高校の学級減、西部地区では、平成31年度に米子西高校、令和3年度に米子東高校の学級減を行った。中部地区では、平成28年度の倉吉総合産業高校の学級減以降は、学級減を実施していない。

<県内中学校卒業生数の減少>

卒業年次	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
全県	5,261人	5,071人	4,934人	4,958人	4,926人	4,707人	4,880人

<近年の学級減の状況>

年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
東部	鳥東▲1 青谷▲1		鳥西▲1		鳥工▲1		八頭▲1	鳥商▲1	
中部		倉西▲1	倉総▲1						
西部	日野▲1					米西▲1		米東▲1	

2 青谷高校における1学級減

(ア) 理由

現行の「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針」では、「1学年3学級の学校について入学者数が2年連続して募集定員の3分の2に満たない場合は、原則として、募集定員を1学年2学級とする。」と定めており、当該基準に合致したため学級減を行う。

平成31年度入試			令和2年度入試			令和3年度入試		
募集定員	入学者数	充足率	募集定員	入学者数	充足率	募集定員	入学者数	充足率
114名	91名	79.8%	114名	57名	50.0%	114名	58名	50.9%

(イ) 今後の対応

- 青谷上寺地遺跡を活用した「考古学」系の学びを新たな魅力とし、2年次の「青谷学」における遺跡発掘体験ともつながる「弥生文化探究」を3年次の学校設定科目として設置。「課題探究」とも連携させ学習を充実させていく。
- 全国でも珍しいサーフィンの授業に加えて、鳥の劇場から講師を招いた「地域・環境芸術」など地域資源を活用した体験的な学びにより、県内外の中学生へ向けたアピールポイントを打ち出して学校の特色化を図っていく。

3 岩美高校における1学級減

(ア) 理由

現行の「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針」では、「1学年3学級の学校について入学者数が2年連続して募集定員の3分の2に満たない場合は、原則として、募集定員を1学年2学級とする。」と定めており、当該基準に合致したため学級減を行う。

平成31年度入試			令和2年度入試			令和3年度入試		
募集定員	入学者数	充足率	募集定員	入学者数	充足率	募集定員	入学者数	充足率
114名	84名	73.7%	114名	58名	50.9%	114名	39名	34.2%

(イ) 今後の対応

- 食をテーマにした学びを新たな魅力として、令和3年度から従来の「福祉類型」を「福祉・フード類型」に改編。なお、令和2年度以降、体験入学の際の中学生の選択希望調査では当該類型が最も人気

が高かった。

- 地域を学びのフィールドとした学校設定科目「ジオパーク観光」や「イワッツ・ミッション」等の探究的な学びに加えて、調理師養成施設の無い東部地区にフード系に関する学校設定科目「製菓」及び「健康と栄養」を設置して、特色化を図っていく。

#### 4 鳥取中央育英高校における1学級減

##### (ア) 理由

同校の近年の入学者数の定員割れの状況、東部・西部地区での学級減等の状況、中部地区での生徒数の減少を踏まえ、学級減を行う。

##### <近年の入学者の状況>

定員	H30	H31	R2	R3
普通コース (定員 120名)	123名 (+3名)	111名 (▲9名)	106名 (▲14名)	60名 (▲60名)
体育コース (定員 40名)	37名 (▲3名)	40名 (-)	20名 (▲20名)	23名 (▲17名)

##### <中部地区中学校卒業生数の減少>

卒業年次	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
中部	943人	921人	867人	925人	887人	907人	900人

##### (イ) 今後の対応

- 「地域で生き、地域に貢献できる生徒を育てる学校」を目標とし、地元北栄町、琴浦町との地域連携の協約を生かした学びを展開する。全ての生徒は1年次に「探究」の基礎を学んだ上で、2年次からスポーツ探究類型、未来探究類型、社会探究類型の3つの類型に沿った地域探究学習を深め、同校の伝統であるスポーツ分野や上級学校への進学、地域の企業への就職や公務員等の進路を実現し、将来、地域を実際に支えたり、地域とのつながりを持ち地域を応援する生徒の育成を図る。
- 同校はスポーツ強豪校であることが特色の一つであり、競技実績が高く、部活動のリーダーを務めている生徒は普通コースにも多いという実態があることから、体育コースをスポーツ探究類型に改編することで生徒の選択肢を増やすとともに、学生寮も活用しながら多様な進路希望を持つ県内外の有望なアスリート等の募集につなげる。
- また、部活動における競技者のレベルをさらに向上していくため専門の指導教員（陸上、水球、バレーボール、レスリング、山岳他を想定）を確保し、部活動の競技実績のさらなる向上も図っていく。